



キンギョの水そうには、水草を入れなければいけないの

キンギョの水そうには、水草とじゃりや砂が必要

キンギョの水そうの中は、うんちやおしっこ、食事をするえさが、いっしょになっていて、キンギョはその中で息をし、ねむったりもしていることになります。そこで、キンギョの水そうには、底に砂やじゃりをしいてやり、必ず水草を植えてやる必要があります。

キンギョを飼いはじめると、水そうの底の砂やじゃりの表面、かべなどに、バクテリアがつき、ふえます。バクテリアは、キンギョのふんや、えさの残りなどを分解し、害の少ないものに変えます。これを、植物性プランクトンや、水草、水そうにつく「も」などが、栄養分として利用します。このプランクトンや「も」は、キンギョのえさにもなります。

水草や「も」は、水中に酸素を出す

水草や「も」、植物性プランクトンは、キンギョのはき出す二酸化炭素を吸収し、地上の草や木と同じ光合成(光の助けをかりて、二酸化炭素と水から、でんぷんなどの栄養分を作る)を行い、酸素を水中に出します。バクテリアや植物性プランクトン、水草などと魚は、おたがいに食べるもの、排せつするものを、うまく利用しあって生きているのです。

キンギョが産卵するときも、卵がくつつくものとして、水草はかせないものです。

(監修・安部 義孝)

